

## 2023 年度 韓国研修報告書

19A099 林穂乃香

私は、8月7日から10日まで4日間の韓国研修に参加させていただきました。

まず1日目は韓国についてホテルでチェックインした後、ホテル周辺を歩き、夕食にはタッカルビを食べました。空港からのバスの中からも感じたことですが、街中にある薬局の多さに気づきました。

2日目は、漢陽大学校大学病院を見学させていただきました。実務実習後であったため、日本で私が経験した病院と韓国の病院の違いを比べながら見学することができました。1番驚いたことは、861床という病床数に対して薬剤師が29名しかいないということでした。また、夜の時間の勤務のみを専門に行う薬剤師が常勤の薬剤師とは別に6人いたことでした。漢陽大学校大学病院での薬剤師の仕事としては、外来、服薬指導、治験業務、TPN、NST、CPCS(TDM)、副作用モニタリング、相互作用確認、持参薬確認などで日本での業務内容とあまり違いは感じませんでした。無菌調剤室も見学させていただきましたのですが、扉を開けると音楽がかかっており驚いたことを覚えています。調剤室には、調剤補助の人(主にピッキングをしていた)方がおり、実習先の病院にはいなかったのが驚きました。調剤補助の方を配置することで、少ない薬剤師

の人数をカバーしているのかなと思いました。

また、韓国の薬学部で行われている実務実習についても説明をしていただきました。韓国では日本とは異なり6年次に実務実習が行われるようで、薬局が5週間・製薬企業が3週間・病院を10週間行なった後に、アドバンスとして自分が一番深めたいと思った場所で15週間実習を行い、学びを深めていることを初めて知りました。私たちが訪問した漢陽大学では、薬学部の1学年の人数が約30人であり、韓国国内で毎年薬剤師となる人数が1800人であることを知り、日本と比べてとても少ない人数であることにも驚きました。

2日目の午後には、韓方剤市場と韓方博物館を見学しました。市場では、固まったエリアにたくさん韓方剤が売られているという光景は日本では見られないものだったので、とても新鮮でした。韓方博物館では、金や真珠など日本では見たことのないものが薬として使われていることや、韓方剤を作るためのすり鉢や道具などを見ることができ、昔から使用されていたということがわかりました。その後は、ソウル大学の医学博物館を見学しました。そこでは、当時の医師が着ていた制服や当時使われていた医療器具などを実際に見ることができました。



3 日目は製薬会社、地元の薬局の見学と漢陽大学の学生との交流会がありました。見学させていただいた GCpharma という製薬会社は韓国で 2 番目に大きい製薬会社のように、研究所はとても広く綺麗でした。働いている従業員の方は、研究所だけでは 250 人が働いており、見学の際にみた感想としては若い人、そして女性が多いと感じました。研究所では、血液製剤はスモールスケールで研究を行い、別の場所にある工場で作るといった方法をとっていることがわかりました。また、現在の韓国は休戦中であることから炭疽ワクチンもあるということで、日本との違いを感じました。

次に、薬局の見学をさせていただきました。1 つ目の薬局では、薬剤師の方が 4 名(他に 4 名)と調剤補助の方が 8 名いました。見学していて気がついたこととしては、調剤室では主に調剤補助の方が働いており、薬剤師は薬袋を作成したりと調剤業務に関わっていないことが印象的でした。その薬局長の方が薬剤師に大事な 5 つのポイントについて教えてくれました。ポイントは以下の通りです。①ice break ②fact finding ③delivery information ④confirm ⑤greet この 5 つのポイントの中で、1 番大切な要素は①だそうです。なぜなら、アイスブレイクは薬剤師一人一人の個性が出るため、後の要素に関しては、どの薬剤師が行ってもあまり大差が出るものではないからです。アイスブレイクを通して、患者さんとコミュニケーションがよく取れている薬剤師の場合、何かトラブルが発生した場合に患者さんは怒らず理解していただける可能性が高くなるため、アイスブ

レイクは重要であることがわかりました。

2 つ目に見学させていただいた薬局では、薬袋というものがなく若い人にもどのような人に対しても 1 包化を行っている薬局でした。日本では、1 包化をするためには理由が必要であったり、加算が取れたりなどがありますが、韓国では違うのだなと思いました。また、その薬局では人間の薬だけでなくペット(犬や猫)の薬も販売されており、日本では販売されているのをみたことがないため、驚きました。販売するために、講義を受けて許可を受ける必要があることがわかりました。そして、どちらの薬局に対しても言えることではありますが、日本の調剤薬局ではあまり OTC 薬が置かれていませんでしたが、韓国にはドラッグストアに当たるものがないため、薬局に OTC 薬がたくさん置かれており、処方箋を持っていない患者さんにも利用されている光景を見ることができました。

漢陽大学の交流会では、漢陽大での大学生活や講義を聞くことができました。講義では、海馬に存在している私たちの記憶に深く関わっている RNA の話を聞くことができとても興味深かったです。その後の食事会では、実際に漢陽大の学生と英語や韓国語、そして翻訳のアプリを通して、大学生活のことや趣味のこと、そして就職したいと考えている業界のことなどのお話をするのができて勉強になりました。

今回の研修を通して、日本の大学のカリキュラムや病院、薬局などとの違いや同じ部分など、実習後に見学できたからこそ、違いを感じる事ができて勉強になりました。